

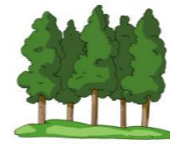


平成28年8月発行 発行者 砺波カイニヨ倶楽部 代表幹事 出村 忍
事務局 富山県砺波市表町 14-10 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内



天然タテヤマスギと地震の跡にふれる

= 27名 楽しく散策 =



7月31日(日)天然タテヤマスギにふれる現地見学会を27名の参加でおこなった。
主な見学内容は

- ①ブナ坂から美女平まで歩道を歩き、
 - (1) 昭和29年植スギ林とクマの喰害あと
 - (2) タテヤマスギ精英樹の一本を見る
 - (3) ブナ、トチ、ウダイカンバ等の広葉樹林内
 - (4) 樹齢500~800年生スギと人間による「剥ぎとり木」等を約2時間かけ散策。
- ②弥陀ヶ原から立山カルデラを上から見る予定は大雨で中止
- ③美女平から弥陀ヶ原までをバスから
 - (1) 明治40年植スギ林、109年生は県内高海拔最古の人工林
 - (2) タテヤマスギ天然林の集中している200haに約3,000本、又、その中の巨木(幹周り6m以上)は124本ある。(ha・メートル・100m*100m=10000平方メートル)
道路沿いでの最大木(海拔1,185m)幹周り9.4m、樹高28mを見る。
 - (3) 海拔1,910mで生息するスギ2本、樹高4~5mを遠望確認(全国で2番目の高位置)
 - (4) 悪城の壁をみおろす(ガスがかかりよくわからなかった)
- ④立山博物館で「カルデラ」の映像をみる。
- ⑤西大森の大石、安政5年(158年前)4月26日土石流で押し出された大石(高さ7.2m 周り32.4m)この石で西大森村が助かった。
- ⑥月岡神社のセンノキ。この木は千寿が原上流部に生息する。158年前の土石流で種子(苗)が流され微高地であった神社で根をおろした。5本のセンノキは極めて珍しい存在で資料としても注目される。

* * * *

こうした見学を全員無事でやり終え、5時となみ散居村ミュージアムに帰った。

この案内を幹事の柏樹直樹氏が行った。

バス内では、出村忍代表幹事が挨拶し、裏方を高畑邦男幹事・他がつとめた。昼食は大雨で、バス内であったが、下山してから又好天になった。富山新聞が西大森、月岡神社で取材し翌日報道した。



柏樹直樹氏の解説を聴きながら天然林の中を歩く



月岡神社の木陰で参加者一同

参加者の一口感想

- ・ 2時間ほど山を歩いたが、一人では入れないスギ林にふれ大変よかった。
- ・ 山の天気の変わりは早い。もう少し雨が降らなかつたらよかった。カルデラを見たかった。
- ・ センノキの中で葉の違うものがあった（要調査）
- ・ 土石流の力にビックリ。案内字の入った石かと思ったら全く違っていた。
- ・ 博物館でカルデラの映像を見て、全体がわかった。いつか弥陀ヶ原からのぞきたい。
- ・ タテヤマスギ大古木にふれ、パワーをもらった。
- ・ 美女平からブナ坂までの台地200ha、その上600haというが広いものだ。山は広く恐ろしい。
- ・ 江戸、明治と人が入って木を利用していた。その跡に驚いた。



案内役の柏樹さんから

- (1) 27名の参加、その内会員外の方が半数。雨にあつて残念だったが、よくこのコースに参加下さり感謝。
- (2) ブナ坂から美女平まで歩いたが、雨がこなければもう少し天然林の空気にふれてもらえたのに、残念。カルデラは中止。その代わりに博物館で映像を見てもらえ、少しよかった。
- (3) 私の訴えたかったこと
 - ①スギの生命力、執念の姿にふれてもらいたい - 恐ろしさをもった強さが天然木を通して伝わること。人間は繰り返し木をいじめ、又、少しは自分達を規制し今の天然林の形を残してきた。次代に引き継ぐことが現代人の任務だ。
 - ②地震、風水害はいつでもどこでも必ずくること - 安政の大地震のツメ跡と、その遺物にふれ考えあう。
その土地の人の語り伝えや地名等は大事な情報源、今それを軽んじている。
- (4) カイニョの中のスギ、100年つき合うガマンが人間に必要なだ。
スギは潜在植生、人間が入る前から生きていた木だ。
- (5) 大役を引き受けたが、老人ゆえ不十分この上なくテンポも悪くご迷惑をかけた。
無事に帰れ、みんな笑顔で別れたことが嬉しかった。又の参加とご協力のほどを。

——交流会とカイニョ見学 参加者募集——

安曇野から屋敷林見学に来られます

日時 9月22~23日(木・金)

マイクロバスにて、五箇山の合掌づくりを見学し後に砺波へ

22日(木・秋分の日)午後6時00分 交流会 コスモス荘にて

23日(金)午前9時からカイニョ見学2軒

■参加希望の方は、事務局：天野 33-6588、090-9444-8655へ■

——新藤正夫様が第34回富山風雪賞を受賞——

(この賞は富山新聞社より)

受賞お祝いの会「新藤正夫先生を囲み講話を聴く会」が7月23日(土)砺波市出町中心市街地「神田家」で開催され49名(世話人共)が出席なされた。(当倶楽部もお世話をした)

お祝い会は、一般的に祝辞後、宴席が設けられるが、今回は、先生に講話を頂き、お茶席が設けられた。神田家は旧商家・町家で「富山の土蔵」に紹介された蔵や、風格のある庭園と離れの座敷・茶室がある。

先生に、蔵の戸前で「散村の暮らしを育んだ砺波平野」と題し講話を頂き、離れの座敷でお茶会がおこなわれ、座敷は、夏のしつらえで簾戸に入れ替えられ、御簾(ミス)が吊られ、床には加賀藩まつに関する軸もかけられ、四席まで頂いた。お茶会のかたわら、神田家や建物・庭木の説明を、安カ川・上野・柏樹先生方がなされた。

○感想等

- ・ 「郷土の散村にいてわかった。忘れられていた日本文化を感じ、新鮮で有意義な時間をありがとう」
- ・ 新聞の投稿に「学べて風情を感じ、良き会であった」との内容。
- ・ 講話で、特に「散村を残すには、米を売る事が必要」との事に同感した。
- ・ 古き商家・町家に入り、場の記憶を感じ、郷土を学び、座敷より庭園を眺めお茶を頂き、身震いし心の奥に眠る日本人の何かが揺さぶられる感じがした。久しぶりの感動です。
- ・ この素晴らしい町家を市民の為に利用出来ないか。市街地に人が集まる施設に出来ないか。



新藤先生の講話



庭を眺めてのお茶席

富山新聞社第34回富山風雪賞に5氏1団体(共)が選ばれ、砺波市出町中心市街地「神田家」で受賞お祝いの会が開催された。先生に講話を頂き、お茶会がおこなわれ、座敷は夏のしつらえで簾戸に入れ替えられ、御簾(ミス)が吊られ、床には加賀藩まつに関する軸もかけられ、四席まで頂いた。お茶会のかたわら、神田家や建物・庭木の説明を、安カ川・上野・柏樹先生方がなされた。

富山風雪賞
富山新聞社第34回富山風雪賞に5氏1団体(共)が選ばれ、砺波市出町中心市街地「神田家」で受賞お祝いの会が開催された。先生に講話を頂き、お茶会がおこなわれ、座敷は夏のしつらえで簾戸に入れ替えられ、御簾(ミス)が吊られ、床には加賀藩まつに関する軸もかけられ、四席まで頂いた。お茶会のかたわら、神田家や建物・庭木の説明を、安カ川・上野・柏樹先生方がなされた。

一隅を照らす
富山新聞社第34回富山風雪賞に5氏1団体(共)が選ばれ、砺波市出町中心市街地「神田家」で受賞お祝いの会が開催された。先生に講話を頂き、お茶会がおこなわれ、座敷は夏のしつらえで簾戸に入れ替えられ、御簾(ミス)が吊られ、床には加賀藩まつに関する軸もかけられ、四席まで頂いた。お茶会のかたわら、神田家や建物・庭木の説明を、安カ川・上野・柏樹先生方がなされた。

散居村は宝 後世に
富山新聞社第34回富山風雪賞に5氏1団体(共)が選ばれ、砺波市出町中心市街地「神田家」で受賞お祝いの会が開催された。先生に講話を頂き、お茶会がおこなわれ、座敷は夏のしつらえで簾戸に入れ替えられ、御簾(ミス)が吊られ、床には加賀藩まつに関する軸もかけられ、四席まで頂いた。お茶会のかたわら、神田家や建物・庭木の説明を、安カ川・上野・柏樹先生方がなされた。